

# 馬籠宿 島崎藤村「夜明け前」文学散歩と味めぐり

名作「夜明け前」に登場する場所がそのまま残っている馬籠宿で、文学散歩と藤村も食べた郷土の味をお楽しみください。(距離:約2.8km)

馬籠は木曾十一宿の一つで、この長い谷の尽きたところにある。西よりする木曾路の最初の入り口に添うて、曲がりくねった山坂をよじ登って来るものは、高い峠の上の位置にこの宿を築いてきた。街道の両側には一段ずつ石垣を築いてきた。その石を載せた板屋根がその左右に並んでいる。(第一部 序の章 一より)



## 1 清水屋資料館

藤村の長男、楠雄が世話になったことから、藤村直筆の書簡・掛け軸などを多数展示。また、文書、書画、陶磁器、漆器などをはじめ、宿場の生活文化史ともいえる数々の遺品を展示している。

## 2 槌馬屋資料館

1階はお休み処で、店頭では名物乗こくを販売している。2階は展示資料館となっており、島崎正樹自筆の文献を多数所蔵するほか、「初恋」のモデルであったおふゆの写真など多数の資料を展示している。

## 3 永昌寺と藤村の墓

永昌寺は島崎家の菩提寺。「夜明け前」には万福寺として登場する。衝撃的なエンディングの舞台として有名。墓には藤村の遺髪と爪が、父・前妻・長男らと並んで納められている。墓石は藤村がデザインしたものと伝えられている。

## 4 四方木屋

藤村の私小説「嵐」にも登場。今はカフェになっている。藤村の長男楠雄のために建てられた。店名は、幼くして夭折した楠雄の子どもの名前「四方木」からとられた。店内には藤村が使っていた品々や、レトロモダンな木製インテリアが並ぶ。上品でやわらかく、ほどよい甘味のわらびもちや白玉が人気。

## 5 藤村記念館

藤村の生家であり、馬籠宿の本陣・問屋・庄屋を兼ねる旧家の跡。全ての作品、直筆原稿、周辺資料など約六千点を所蔵・展示。藤村が幼年時代に学習していた「隠居所」のみ、当時の姿のまま残っている。

## 6 馬籠観光案内所

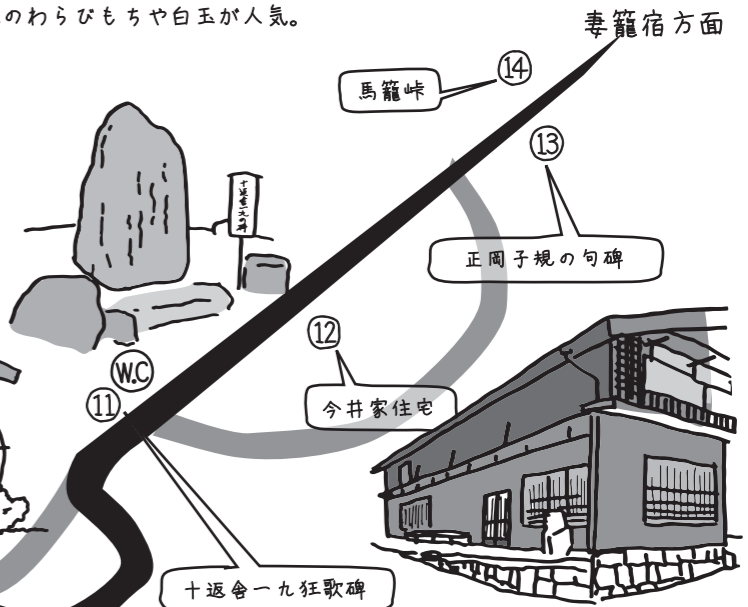
蜂谷家跡。「梅屋と本陣とは、呼べば応えるほどの向かい合った位置にある」の梅屋のモデル。梅屋の家人もたびたび登場している。

## 7 大黒屋

「夜明け前」にも登場する乗こわめしは、乗こわめとして今も食べることがができる。食事のほかにも、民芸品コーナー、ギャラリーもあり、和モダンな雰囲気を楽しむことができる。

## 8 脇本陣資料館

蜂谷家に伝わる鎧・生活道具などの遺品、古文書の展示のほか、大名が利用した上段の間を忠実に復元している。入口には、俳人山口誓子の句碑がある。



馬籠郵便局  
白壁造りの木造2階建。2階は、馬籠郵便局ギャラリーとして地域住民が手掛けた作品などが展示されている。

遺髪と爪が埋葬されている藤村の墓

永昌寺  
貴重な遺品を展示 藤村記念館

脇本陣資料館  
「夜明け前」の耕田屋のモデル、八幡屋(蜂谷家)跡に建つ資料館。当時の生活・文化を紹介する資料が展示されている。

さまざまな碑が建つ見晴台

高札場  
「夜明け前」の中でも、ランドマークとして度々登場する。木曾代官により掲げられた正徳元年の毒薬・キリシタン禁制、明和7年の徒党禁止等の高札が復元されている。

大黒屋  
「夜明け前」では伏見屋として登場。執筆の参考にしたのが、この主人が書いた「大黒屋日記」である。「初恋」のモデルおふゆさんの生家でもある。

槌馬屋資料館  
島崎家と同じく、湯舟沢村の庄屋を勤める家柄であった。

清水屋・清水屋資料館  
藤村の私小説「嵐」の森さんのモデル、原一平の家。

お土産いろいろ馬籠館

## 藤村も食した馬籠の名物3味

**乗こわめし**  
十返舎一九がそのおいしさに、「淡皮のむけし女は見えねども 乗のこわめしここの名物」と句を残した名物の乗こわめし。「夜明け前」にもたびたび登場する。馬籠宿内では、今でも多くのお店で食べることができる。

**五平餅・御幣餅・ごへーもち**  
団子型に胡桃入りのタレを使うのが、この地方の特徴。ただし、「夜明け前」に出てくる五平餅は銭形に描かれている。文中には、胡桃のタレのかかった五平餅が、「御幣餅」として登場する。「その名の御幣餅にふさわしく、こころもち平たく銭形に違って串ざしにしたのを、一ずつ横にくわえて串を抜くのも、土地のもの食い方である。」(第二部 第四章 四より)

**信州そば**  
木曾から信州にかけての名物と言えば信州そば。手づくりの山家のそばは、素朴ながらも実に風味が良いのが特徴。

## 9 見晴台

「夜明け前」で馬籠の象徴的な風景として描かれた恵那山を望む展望台。「心を起さうと思わば先ず身を起せ(ニーチェの言葉より)」、「美濃刈信濃國」、「お民、来てご覧」(夜明け前第一部第一章)など、さまざまな碑が建つ。

## 10 水車塚

明治37年(1904)7月、水害のためここにあった家屋は一瞬にして押し流され、一家四人が惨死した。難を逃れた家族の一人、蜂谷義一が、藤村と親交があったことから、後年に供養のため藤村に碑文を依頼して建てたものがこの「水車塚」。碑の裏には「信濃の國」の作詞者である浅井冽の撰文が刻まれている。

## 11 十返舎一九狂歌碑

古くから乗こわめしは峠の名物で、江戸時代の戯作者十返舎一九は文政2年(1819)に木曾路を旅して「岐蘇街道膝栗毛」の馬籠のくだりで、このような狂歌を詠んでいる。淡皮のむけし女は見えねども 乗のこわめし ここの名物

## 12 今井家住宅

江戸時代、今井家は牛方と呼ばれる民間輸送機関の組頭を務めた。島崎藤村の「夜明け前」にも登場しており、かつての牛方組頭としての規模と格式を備えた貴重な建築遺構である。

## 13 正岡子規の句碑

「白雲や青葉若葉の三十里」とありこれより馬籠宿の入口となる。

## 14 馬籠峠

このあたりが岐阜県と長野県の県境。夜明け前でも馬籠峠を越えて人が行き来する様子が描かれている。



## 歩き旅

企画 馬籠観光協会  
制作 中山道ぎふ17宿歩き旅事務局  
(日本イペント企画株式会社内)